

# 社協をがみはらみんないのひと



社会福祉法人

# 中央区だより第33号

〒252-0236 相模原市中央区富士見6丁目1番20号 市立あじさい会館内 ☎042(730)3888 FAX042(759)4382

のみ。。 050問題」 が亡き後、 このような相 ても、 を母親が行っている、 いただいた「困りごと」は、 からの相談を受け、 民生委員・児童委員が8代の わたるため、 食事等の日常生活み。5代の息子に 母親と息子それぞれの 世帯の収入は、母親の年へい、息子の生活が心配」とい 代の息子には、疾 帝として抱える問題が心する専門相談機関が 6相談が多く寄せられます() を抱える世帯でした。 CSWにお 活や金銭管理等 いわゆる「8 談機関があ 「困りご 必が多岐 病 自 寄せ かヾ 母

ていきます。

CSWの役

**天践報告集**]

まと

ま 0

め間

取組を

また、

C S

W

に関

文えあい活動に機関等との連携

携・協働に

より

進

いよる地

0

を広

組を地

域

と社会福祉施

設、

専門

相

(と人とのつながりを育

『むための

委員・児童委員をはじめ高齢者支援 談が寄せられました。 センターなど専門相談機関等から 地域の身近な相談役である民生や和元年度の相談件数は、297 息子の生活が

ることが最も重要となります。 支援を必要とする方を早期に把

後につなぎます。

そのためには、

に把

握

す

を整理-

Ļ

必要なサービスや

本人に寄り添いながら「困

「困りごと」を抱 働きかけること)

える世

として受け

域の中の声なき声を

方に気付いたら、民生委員も皆さんが身近な地域で困

って

る

童

も

自分が亡き後、 め 7 (CSW 中 央 X の

進み援

づくり する仕 えあい 民による 支援につな 動で支 支え ビスや 公的 困 を な あ 地 り げ 活 職

る動支

ごと」

活 0

やひきこもり、 ーティソ 社協では、 を配置し、家族の介護 生活困窮など「困り 市内2地区にコミュ いる方々に カ 寄り添

~口思り コディソ jo,

泵

2

できずに限界まで抱 C S W 陥ってしまう世帯もあります。 必要なサービスや支援に結 ゃ 多 様化 ひきこもりや生活困窮の状 ・孤独」の状態に陥ってし 「生きづらさ」を抱 の取組を通じ、 · 複雑化 をキャッチして していることが した えてしまうな 地 「困りご 域の中 更

きない、 .難な場合もあります。 自ら「困りごと」 「困りごと」 を にも

**2**042 ⋅ 7

·6275

# 福祉コミュニティ形成事業

員やお住

いの高齢者支援センタ

CSW等につないでください。

|握された「困りごと」を基

圆福祉推進課地域支援係

**25**042-704-6275

の取組からく

域支援



お互い様の気持ちを忘れずに活動! 隊員の星野重幸さんは、退職後に高齢者サロン等のボランティ ア活動を行う中で、参加者からの「粗大ゴミが出せない」「ラジオの 電池交換ができない」等の困りごとの声を聞き、地域福祉推進会議 に参加し、団体の仕組みづくりを行ったことをきっかけに活動を始

めました。 星野さんは、「一緒に活動することで仲間が増えることや、困っている人のお宅に行って一緒に話 し、喜んでもらえることが一番のやりがいになっています。活動する人も困っている人もお互い様。お 互い様の気持ちを忘れずに御縁を大切にこれからも活動していきたいです。」と語ってくれました。

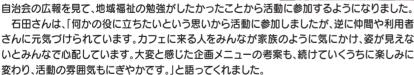
### ちょっと手伝い隊

家具の転倒防止用具の設置や草取り、ビンのふた開け等の高齢者世帯のちょっとした困りごと

を住民同士が互いに助け合う活動をしています。

## 仲間や利用者から元気をもらえる!

活動に参加する石田公子さんは、お母様の病気をきっかけ に相模原市に転居されてきました。お母様が亡くなられた後、 喪失感を感じていた時に、マンションの掲示板に張り出された



### はやぶさカフェ 大野北 (コロナ禍により、現在、活動を休止しています。)

2か所で毎月1回ほっとできる「集いの場」を開催しています。お楽しみ企画への参加や、ちょっ とした悩みを話せるなど、元気になれる場所として活用されています。

## 田名ボランティアセンター

### 活動後にいただく声が次への活力!

運営委員、コーディネーター、サポーターとして活動して いる高野仁さんは、定年退職後、第2の職場も終わり、何か やることはないかと考えていたときに民生委員・児童委員

の仲間からボランティアセンターを紹介され、サポーター登録をしました。

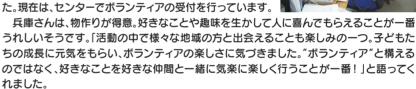
高野さんは、「ボランティアセンターに入って最初の活動で高齢者施設のカフェ手伝い をした後、入所者から「おいしかった。ごちそうさま。また来てね。」の声をかけられて、"ま たやろう"と思いました。草取りの作業で『きれいになってさっぱりした。ありがとう。』の 言葉が次への活力です。」と語ってくれました。

### 田名ボランティアセンター

ちょっとした困りごとは、住民同士の支え合いで解決できるよう相談窓口を設置し、サポーター

域につなぐ

好きなことを仲間と気楽に楽しく! 活動に参加する兵庫康博さんは、民生委員・児童委員に なったことを機に障がい児の送迎ボランティアを始めまし



### ひかりサポートセンター

「ちょっとした困りごとを近隣同士で助け合える地域をつくりたい。」と、高齢者や障がいのあ る方等から地域の困りごとの相談を受け、お手伝いをしています。

### ~ 「みんなで『気軽に』、『楽しく』!!」~

「地区社会福祉協議会」が中心となって、地域の福祉課題(困りご と)を発見・共有、解決に向けた仕組みづくりを検討し、実践する「福 祉コミュニティ形成事業」。「交流の場づくり」、「見守り活動」、「困りご と相談窓口」など、地区ごとに取組は、様々です。今回は、活動を支え る地域の皆さんの声を取りあげ、一緒に活動していただける方を大

コロナ禍で現在活動をお休みしている地 区もありますが、再開に向けて、「これなら できる!みんなでできる!」是非一緒に活動 しませんか。

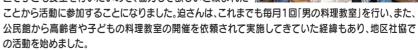


### ぶらっと上溝 こどもクッキンク



# 食を通じた子どもとのやりとりにやりがい

ボランティアの迫加津旺さんは、上溝地区社協より、上溝地 区で子ども食堂を行いたいので、協力して欲しいと頼まれた



迫さんは、「人は、食が満たされると"ハッピー"な気持ちになる。特に子どもは、喜怒哀楽がストレート なので『美味しい!!』と食べてくれるととてもやりがいを感じる。また、『次はあれがやりたい!!』、『これが 食べたい!!」と、子どもたちが期待し、喜んでくれている様子を見るとうれしい。」と語ってくれました。

ぶらっと上溝 こどもクッキング (コロナ禍により、現在、活動を休止しています。) 地域の皆さんが交流できる場所ぶらっと上溝で、こどもクッキング (体験型子ども食堂) の

社協は、皆さんからの寄付金・賛助会費・共同募金に支えられています。 紙面や記事についての御意見を大募集!本紙は、市社協・地区社協各窓口でも配布中

市社協ホームページ

相模原市社協



右面

さがみはら中央区版 1/14 社協 製作:製作三五 晴奈) 7校